

NS形ダクティル管接合器具

NSリーダー I

取扱説明書

φ75～φ300用



ご使用前に必ずお読みください

購入年月日： 年 月 日

お買い上げ店名： _____

—お願い—

- この取扱説明書はお使いになる方に必ずお渡しください。
- 安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
- この取扱説明書は、お使いになる方が必要なときにいつでも見られるところに大切に保管してください。

この取扱説明書は、NSリーダーIを正しく、安全に使用していただくための作業手順と注意事項を記載したものです（誤った使用方法是、事故・けがの原因となります）

本取扱説明書は、NS形ダクティル管の接合要領そのものに関しては、お客様が理解されているものとした上で、接合器具の説明と注意に限定しています

*本書の記載事項は、予告無く変更することがあります。（211013）

○安全にご使用頂くための注意事項

 **警告** 誤った取り扱いをした時に、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 **注意** 誤った取り扱いをした時に、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

なお、 **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

 警告	
○	作業の際は安全靴・ヘルメット・保護手袋等を着用して下さい
○	接合器具を取り付ける場合は、手足や衣服等挟まないよう注意して下さい
○	鎖取付部を確実に固定しているか確認して下さい
○	接合器具取り付け時には、鎖に弛みのないようにして下さい
○	必ず接合器具の連結鎖長さを管の口径に合うように調整してから使用して下さい
○	レバーホイストを取り付ける場合は、接合器具のフックに確実に掛けて下さい
○	レバーホイストは、決められた荷重のものを使用して下さい
○	レバーホイストは、接合器具には 1tf、補助器具（異形管用）には 0.5tf のものを使用して下さい
○	レバーホイストには、規定以上の荷重をかけないで下さい
○	管の接合又は解体以外の使用は避けて下さい
○	管や接合器具を持ち運びする場合、手を挟んだり、足に落としたりしないように注意して下さい
○	使用前には、必ず接合器具の点検（点検箇所は本文に記載）を行い、ひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、使用をやめて下さい
○	また、使用中にひび割れ、変形、破損等あるいは部品欠陥等の異常な個所があれば、直ちに使用をやめ弊社に修理を依頼して下さい
○	連結鎖及びガイド付き鎖は購入後「3 年毎」または「接合回数 1000 回未満」までに交換して下さい
 注意	
○	本製品はダクティル管接合器具です。器具やパイプの破損の原因となりますので、ダクティル管以外の接合には使用しないで下さい
○	接合時は片引きにならないように、各レバーホイストを均等に操作して下さい
○	レバーホイストを取り外す時、器具が滑る場合がありますので注意して下さい
○	接合時に管の外面塗装を損傷した場合は、専用の補修用塗料で補修して下さい

(目次)	
1. NSリーダー I の各部名称	3
2. 接合器具の点検	4
3. 接合器具の鎖長さの調整方法（管の口径に合わせて調整）	6
4. 接合器具の取り付けと接合（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）	8
4.1 接合器具の取り付け方法	8
4.2 直管と直管の接合（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）	9
4.3 直管と異形管の接合（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）	10
注） $\phi 300$ 直管受口と 異形管挿し口を接合するときの注意点	12
4.4 異形管と異形管の接合（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）	13
【資料】NSリーダー I（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）ご使用に関する警告	14

NSリーダー I の対応口径表

作業名	継手部		対応口径					
	受口側	挿し口側	$\phi 75$	$\phi 100$	$\phi 150$	$\phi 200$	$\phi 250$	$\phi 300$
接合	直管	直管	○	○	○	○	○	○
		異形管	○	○	○	○	○	○
	異形管	直管	○	○	○	○	○	不要*
		異形管	○	○	○	○	○	不要*
解体	接合直後 （滑剤あり）		解体作業は NS リーダー解体器具の取扱説明書をご参照下さい					

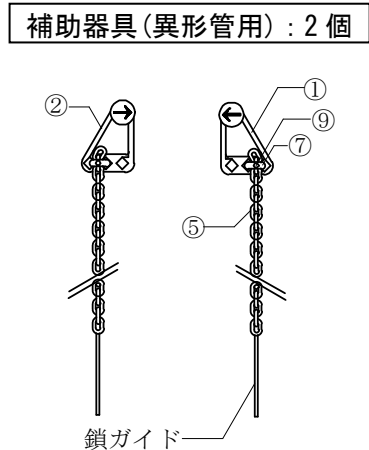
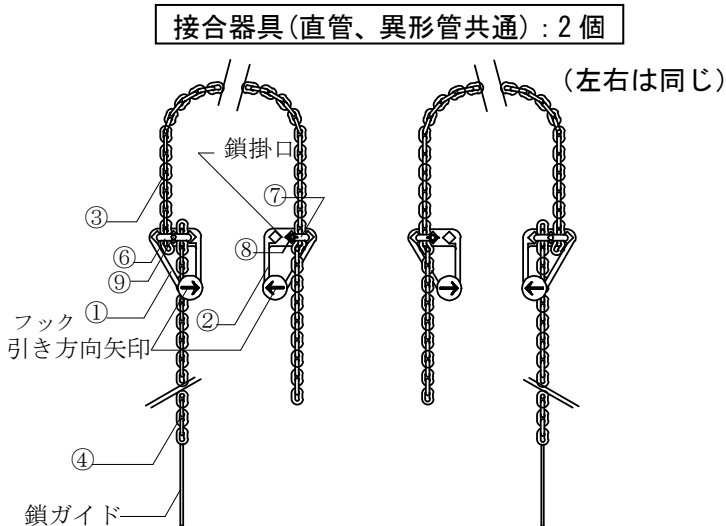
* $\phi 300$ の NS 形異形管の受口はメカニカル継手になります。接合時に必要な工具は「NS 形ダクタイル管接合要領書（日本ダクタイル鉄管協会）」をご参照下さい。

1. NSリーダー I の各部名称

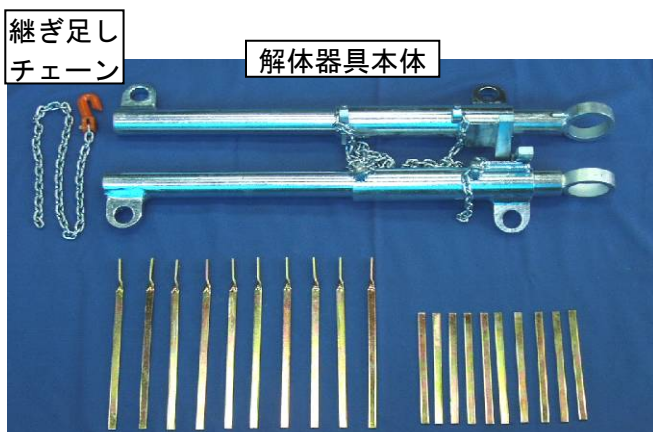
(1) 接合器具



	部品表
①	R側締付部材
②	L側締付部材
③	連結鎖 L=600
④	ガイド付き鎖 L=800
⑤	ガイド付き鎖 L=1200
⑥	鎖固定プレート大
⑦	鎖固定プレート小
⑧	蝶ねじ
⑨	六角ねじ



(2) 解体器具(オプション)



解体矢(直管用)

φ75~250 12本

解体矢(異形管用)

φ75~250 12本

(3) レバーホイスト



警告

- ① レバーホイストは、決められた荷重のものを使用して下さい
- ② レバーホイストは、接合器具には 1tf、補助器具(異形管用)には 0.5tf のものを必ず使用して下さい

2. 接合器具の点検



警告

〔購入直後の点検〕

購入直後には、必ず次のことを点検して下さい

- ① 接合器具を構成している各部品の点検を必ず行い、ひび割れ、変形、破損等の異常な個所がないか確認して下さい

万一ひび割れ、変形、破損等がある場合は、使用せずに返品・交換して下さい
管接合時に破損した場合は、使用者がケガをする恐れがあります

- ② 購入直後、下表により梱包されている員数を確認して下さい

番号 ^{注)}	部 品 名	員数	単位	備 考	チェック欄
①	R側締付部材	3	個		
②	L側締付部材	3	個		
③	連結鎖 L=600	2	本		
④	ガイド付き鎖 L=800	2	本		
⑤	ガイド付き鎖 L=1200	2	本		
⑥	鎖固定プレート大	2	枚		
⑦	鎖固定プレート小	4	枚		
⑧	蝶ねじ	2	本		
⑨	六角ねじ	4	本		
10	継ぎ足しチェーン	1	本	オプション	
11	解体器具本体	1	個	オプション	
12	解体矢 (φ75~250 直管用)	12	本	オプション	
13	解体矢 (φ75~250 異形管用)	12	本	オプション	
14	レバーホイスト (1tf)	2	個		
15	レバーホイスト (0.5tf)	1	個		

注) 丸内数字は3頁図参照



警告

〔連結鎖及びガイド付き鎖の交換〕

- ① 連結鎖及びガイド付き鎖は購入してから「3年毎」に、もしくは「接合回数 1000回未満」で必ず交換して下さい
- ② 連結鎖及びガイド付き鎖は、(株)クボタパイプテック純正品を購入し交換して下さい



警告

〔使用前の日常点検〕

使用前には、必ず次のことを点検して下さい

- ① 接合器具を構成している各部品の点検を必ず行い、ひび割れ、変形、破損等の異常な個所がないか確認して下さい

万一ひび割れ、変形、破損等がある場合は、使用を中止して下さい
管接合時に破損した場合は、使用者がケガをする恐れがあります

- ② 特に連結鎖及びガイド付き鎖の各リンクにひび割れ、変形、破損等がないか確認して下さい

リンクに異常がある場合は、使用を中止して下さい
管接合時に破損した場合は、使用者がケガをする恐れがあります



警告

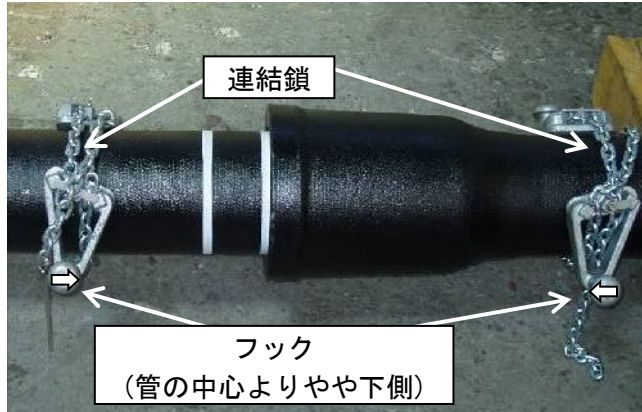
〔連結鎖及びガイド付き鎖の交換〕

- ① 連結鎖及びガイド付き鎖は購入してから「3 年毎」に、もしくは「接合回数 1000 回未満」で必ず交換して下さい
- ② 連結鎖及びガイド付き鎖は、(株)クボタパイプテック純正品を購入し交換して下さい

3. 接合器具の連結鎖長さの調整方法（管の口径に合わせて調整）

管の口径に合わせて、写真1に示すように接合器具のフックが管の中心よりやや下側になるように、受口側、挿し口側共に連結鎖の長さ（リンク数）を調整します。

各口径毎の連結鎖のリンク数は、表1に示す値を参考に調整してください。



警告

締付部材は必ず管横に設置すること。

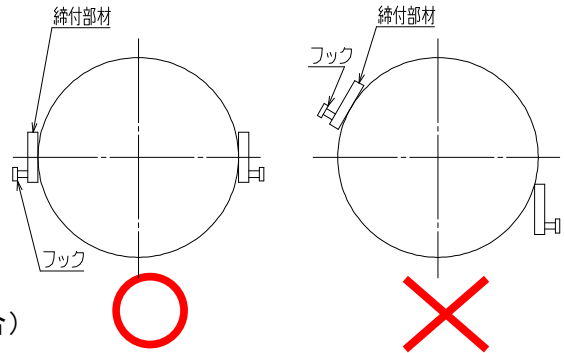


写真1 連結鎖長さ調整後の取り付け例（φ150の場合）

表1 各口径の連結鎖、がイト付き鎖のリンク数（参考）

口 径	連結鎖のリンク数 （管上側）	がイト付き鎖のリンク数 （管下側）
75	7±1	13
100	8±1	17
150	11±1	20
200	14±1	27
250	17±1	31
300	21±1	37

※ 上記リンク数は締付部両端のリンクを含んだ数値とします。

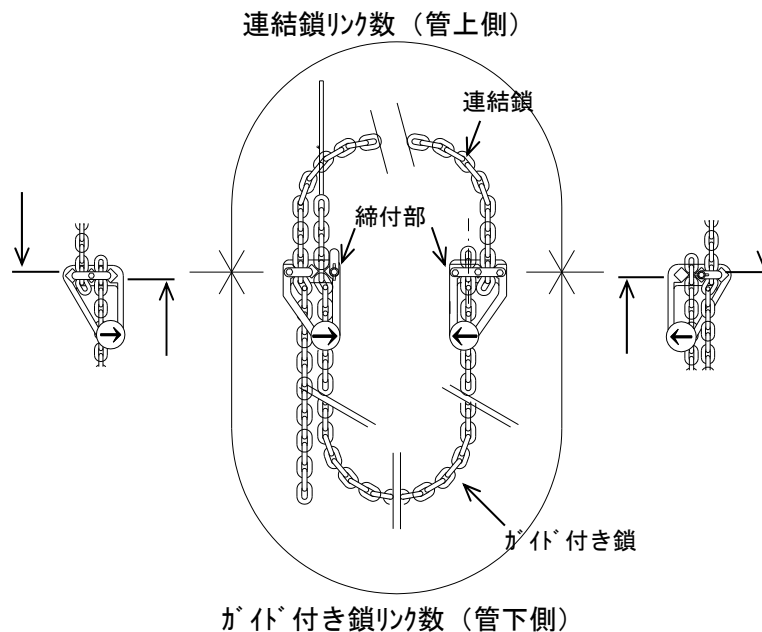


図1 各口径の連結鎖及びがイト付き鎖のリンク数

写真2のように、連結鎖のリンク数の調整は、締付部材の蝶ねじを緩めて行ってください。調整後は蝶ねじは緩みのないように締め付けてください。

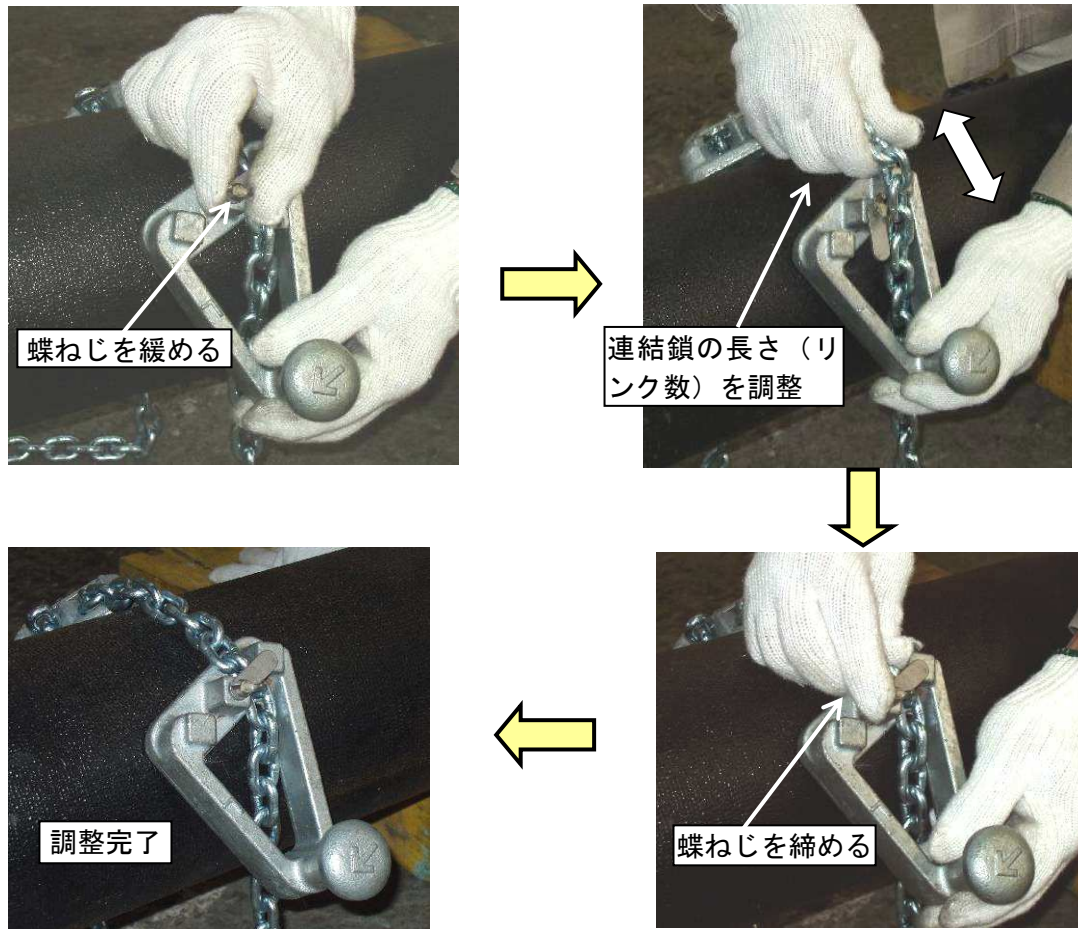


写真2 接合器具の鎖長さの調整方法

4. 接合器具の取り付けと接合（φ75～φ300：写真はφ150の場合）

4.1 接合器具の取り付け方法

接合器具は、接合器具のフックの矢印を写真3のように内側（継手方向）に向けて取り付けます。（矢印の方向に引っ張ることで、接合器具が管体に抱きつき滑りません。）



写真3 接合器具の取り付け方向

- | | | |
|-------------------|------------------------|--------------------------------|
| ① 接合器具は左右均等に管に預ける | ② ガイド付き鎖は必ず締付部材の内側から通す | ③ ガイド付き鎖はできるだけ遊びのないように鎖掛口に引掛ける |
|-------------------|------------------------|--------------------------------|

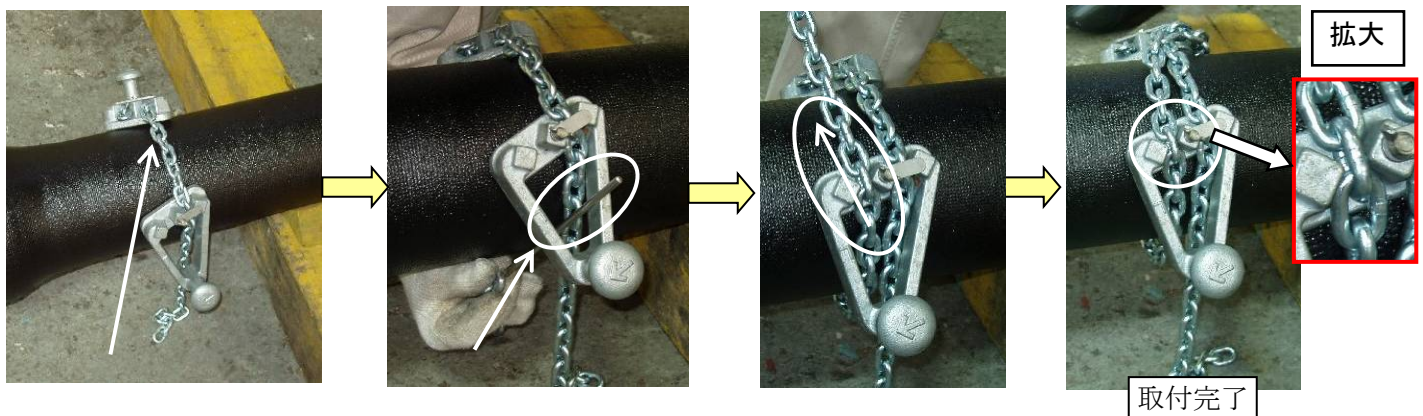


写真4 接合器具の取り付け手順



警告

- ・ 接合機器の取付時には、連結鎖の長さ（リンク数）を調整して鎖の弛みをとって下さい
- ・ 鎖が締付部材と確実に固定しているか必ず確認して下さい

また、異形管を接合するときは、写真5のように、補助器具(異形管用)をさらに管の上側に取り付けて、3点引きで接合できるようにします。



写真5 異形管(3点引き)のときの接合器具の取り付け方法



警告

- ・ 補助器具(異形管用)取り付け時には、連結鎖の長さ(リンク数)を調整して鎖に弛みがないようにして下さい
- ・ 補助器具(異形管用)が動かないように固定されているか確認して下さい

4.2 直管と直管の接合(φ75～φ300)

①P.8の手順4.1に従い、写真6のように、受口側および挿し口側に接合器具を取り付けます。



写真6 接合器具のセット



写真7 管が斜めの場合



警告

- ・ 接合器具取り付け時には、連結鎖の長さ(リンク数)を調整して鎖に弛みがないようにして下さい



注意

- ・ 写真7のように管が斜めになっている場合は、フックを引っ張るまでは接合器具がずぶることがあります。(接合時にフックを引っ張れば接合器具は滑りません。)

②写真 8 のように 1tf のレバーホイストを両側のフックに取り付けます。

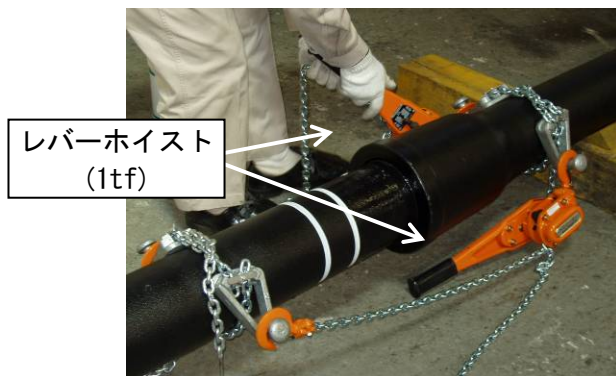


写真 8 レバーホイストのセット

③写真 9 のようにレバーホイスト (1tf) の柄を左右交互に操作して、ゴム輪・ロックリングを通過させ、写真 10 のように白線位置まで挿入します。



写真 9 接合



写真 10 接合完了



注意

接合時は片引きにならないように、各レバーホイスト (1tf) を均等に操作して下さい



警告

- ・レバーホイストは、決められた荷重のものを使用して下さい
- ・レバーホイストは、接合器具には 1tf、補助器具（異形管用）には 0.5tf のものを使用して下さい

4.3 直管と異形管の接合（ $\phi 75 \sim \phi 300$ ）

1) 直管受口ー異形管挿し口

①異形管を接合するときは、管が振れると接合しにくいいため、写真 11 のように 3 点引きできるように、受口側および挿し口側に接合器具と補助器具を取り付けます。また、異形管はやや下側になるように吊り上げます。



警告

- ・補助器具（異形管用）が動かないように固定されているか確認して下さい
- ・接合器具取り付け時には、連結鎖の長さ（リンク数）を調整して鎖に弛みのないようにして下さい

注) 挿入量を予め測定し、挿し口には白線を入れておいて下さい(接合要領書をご参照下さい)。

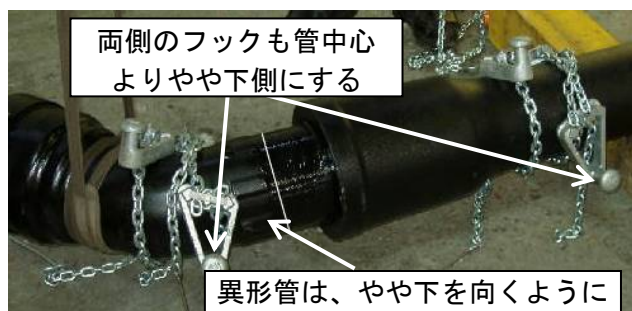
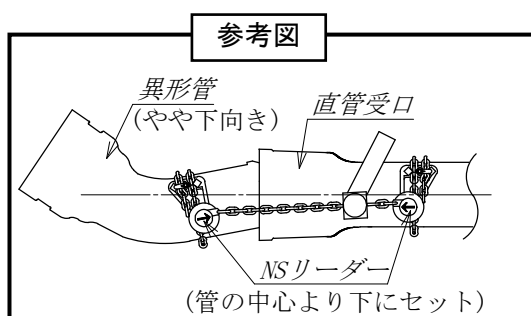


写真 1 1 接合器具のセット (異形管接合のとき)



- ②写真 1 2 のように両側に 1tf のレバーホイストを両側のフック (接合器具) に取り付けます。上側は写真 1 3 のように 0.5tf のレバーホイストを上側のフック (補助器具) に取り付けます。

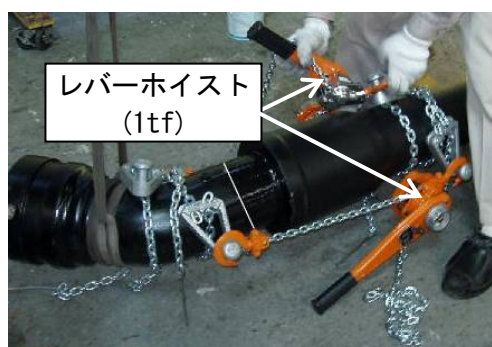


写真 1 2 レバーホイストのセット

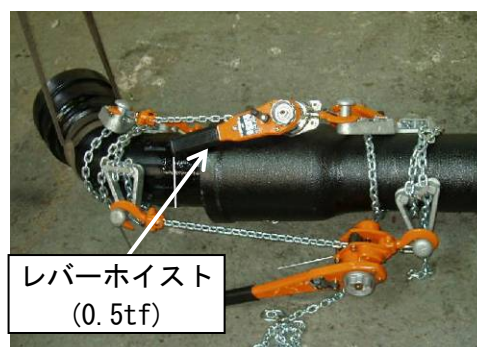


写真 1 3 セット状況

- ③レバーホイスト (1tf) の柄を左右交互に操作して管を挿入します。異形管を安定して挿入するために、写真 1 4 のように異形管が下に向いた状態で両側のレバーホイスト (1tf) を操作し、写真 1 5 のように上側のレバーホイスト (0.5tf) で管を持ち上げ接合します。予め入れた白線まで挿入したら接合が完了です。



写真 1 4 接合①



写真 1 5 接合②



警告

- ・レバーホイストは、決められた荷重のものを使用して下さい
- ・レバーホイストは、接合器具には 1tf、補助器具 (異形管用) には 0.5tf のものを使用して下さい



注意

接合時は片引きにならないように、各レバーホイスト (1tf) を均等に操作して下さい

2) 異形管受口—直管挿し口

1) 直管受口—異形管挿し口の手順と同様に接合して下さい。



注意

(φ300の異形管を接合するときの注意点)

φ300の異形管挿し口を直管受口に接合するときは、下記の手順で接合します。

注) 挿入量を予め測定し、挿し口には白線を入れておいて下さい(接合要領書をご参照下さい)。

① 接合器具が直管受口に当たるまで、異形管挿し口を挿入します。

この時点では、挿し口は完全に挿入(予め入れた白線まで挿入)できていなくても、挿し口突部がゴム輪を通過するまで挿入して下さい。



白線
(現地で挿入量を測定し、接合前に入れる)

接合器具が受口に当たり
奥まで挿入できない

写真16—1 φ300異形管の接合時①

② レバーホイスト(1tf)を緩め両側の接合器具をずらしします。上側の補助器具(異形管用)は取り外します。



上側の補助器具(異形管用)は外す

レバーホイスト(1tf)を一旦緩める

写真16—2 φ300異形管の接合時②

③ 再度挿し口を挿入します。

(このとき挿し口突部はゴム輪を通過しているため、小さな力で挿入できます)。



予め入れた白線まで挿入する

写真16—3 φ300異形管の接合時③

4.4 異形管と異形管の接合（φ75～φ250）

異形管同士の接合は、4.3と同様の手順で3点引きで行います。写真17に接合器具のセット状況、写真18に接合状況を示します。

備考）φ300の異形管同士の接合には本接合器具を使用しません（メカニカル継手のため）。



写真17 接合器具のセット状況



写真18 接合状況



警告

- ・ 補助器具（異形管用）が動かないように固定されているか確認して下さい
- ・ 接合器具取り付け時には、連結鎖の長さ（リンク数）を調整して鎖に弛みのないようにして下さい



注意

- ・ 接合時は片引きにならないように、各レバーホイス（1tf）を均等に操作して下さい



警告

- ・ レバーホイスは、決められた荷重のものを使用して下さい
- ・ レバーホイスは、接合器具には1tf、補助器具（異形管用）には0.5tfのものを使用して下さい

株式会社クボタ建設 営業部

〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2-16-1
TEL : 047-401-5003 FAX : 047-401-5004
〒660-0095 兵庫県尼崎市大浜町 2-26
TEL : 06-6415-2018 FAX : 06-6415-2014

【資料】NS リーダー I (φ75～φ300) ご使用に関する警告

本書は、当器具を使用する際に、特に注意が必要な内容を集約した警告集であり、取扱いについて記載したものではありません。安全にご使用して頂く為に、ご使用前に必ず本書と、別冊の取扱説明書を最後までよくお読みください。

⚠ 警告

誤った取り扱いをした時に、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

1. NS リーダー I の概要

接合器具(直管、異形管共通) : 2 個

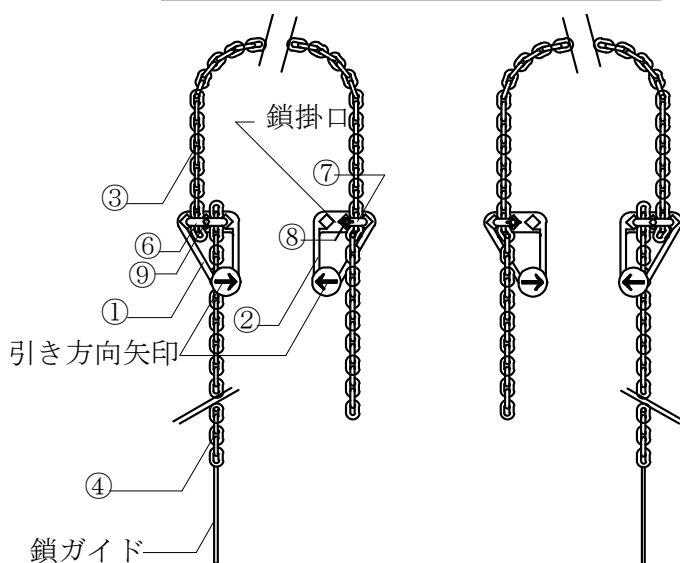


補助器具(異形管用) : 2 個

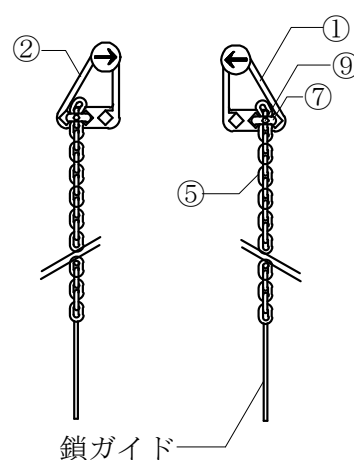
部品表

	部品表
①	R 側締付部材
②	L 側締付部材
③	連結鎖 L = 600
④	ガイド付き鎖 L = 800
⑤	ガイド付き鎖 L = 1200
⑥	鎖固定プレート大
⑦	鎖固定プレート小
⑧	蝶ねじ
⑨	6 角ねじ

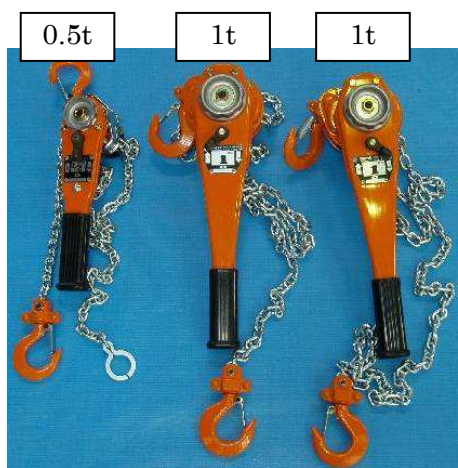
接合器具(直管、異形管共通) : 2 個



補助器具(異形管用) : 2 個



2. 使用するレバーホイスト



R側・L側締付部材のフック取り付け用には、**必ず1tレバーホイストをご使用下さい。**



警告

1tを超えるものは力がかかり過ぎて、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に使用しないで下さい。**



補助器具(異形管用)取り付け用には、**必ず0.5tレバーホイストをご使用下さい。**



警告

0.5tを超えるものは力がかかり過ぎて、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に使用しないで下さい。**

3. 管の接合

「NS形ダクタイル鉄管接合要領書」に従い、**管の接合は真直な状態で接合して下さい。**

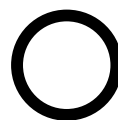
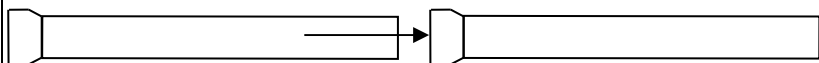


警告

継手を屈曲させての接合は、挿し口が受口内のロックリング等に引っかかり接合出来なくなるだけでなく、レバーホイストに力をかけすぎて工具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に行わないで下さい。**

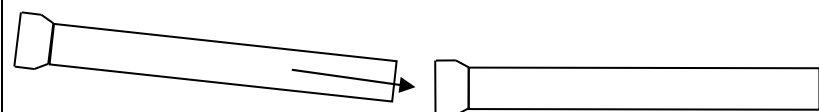
※接合出来ない時は、継手を一旦解体して管を真直な状態にし、接合部品も再度セットし接合して下さい。

必ず真直な状態で接合する



警告

屈曲した状態での接合はできません



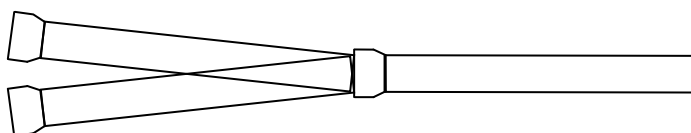
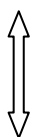
警告

接合中、レバーホイストのチェーンを張った状態で管を振ると、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、絶対に行わないで下さい。

チェーンを張った状態で管を振らないで下さい。



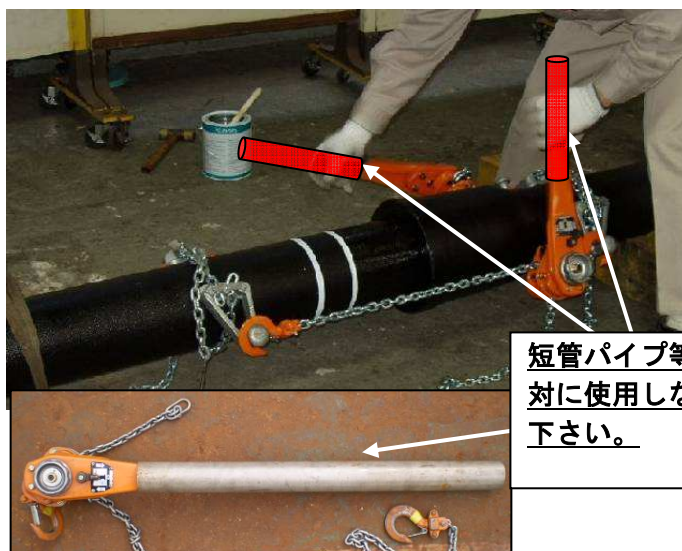
警告 管を振りながらの接合は、絶対に行わないで下さい



警告

操作レバーに短管パイプ等を差し込んでの操作や、足で踏みつけるような操作を行うと、力がかかり過ぎて器具が破損し怪我を負う危険性がありますので、レバーホイストに規定以上の荷重がかかるような、誤った使い方は絶対に行わないで下さい。

挿し口突部がロックリングを通過する時、牽引力が必要以上にかかる場合は、一旦継手を解体して管を真直な状態にし、接合部品も再度セットし接合して下さい。

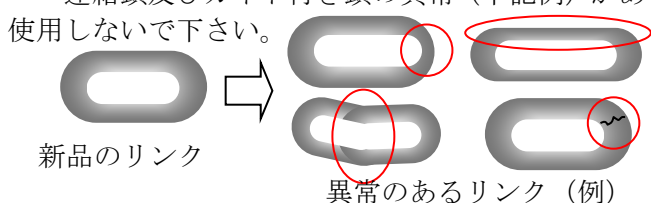


短管パイプ等は絶対に使用しないで下さい。



4. 点検、メンテナンス

警告
使用前に必ず接合器具の各部品の点検を行い、ひび割れ、変形、破損等の異常な個所がある場合は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、絶対に使用しないで下さい。

警告 連結鎖及びガイド付き鎖の異常（下記例）があるものは、絶対に使用しないで下さい。  新品のリンク 異常のあるリンク（例） ・リンク径小 ・伸び ・リンク変形 ・ひび割れ	
---	---

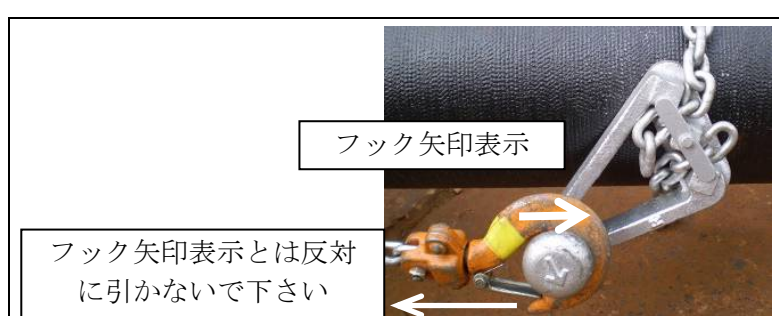
警告
 使用中にひび割れ、変形、破損等の異常な個所が発見された場合は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**直ちに使用を止めてください。**

警告
 連結鎖及びガイド付き鎖は、NSリーダーI専用の部品です。**交換する際は必ず（株）クボタパイプテック純正品を購入して下さい。**

警告
 連結鎖及びガイド付き鎖の交換は、**購入してから「3年毎」もしくは「接合回数1000回未満」で必ず交換して下さい。**取扱説明書は、表紙に購入年月日・お買い上げ店名を必ず記入し、直ぐ確認できる場所に大切に保管しておいて下さい。

5. 締付部材の引き方向

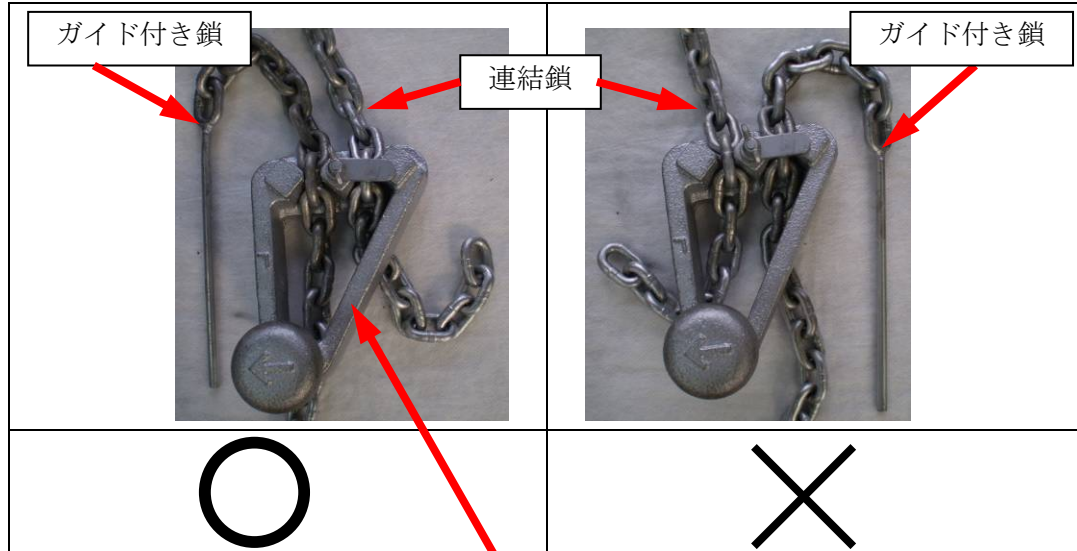
警告
 フックに表示されている引き方向矢印と反対に引いた場合、締付部材が固定されず連結鎖が滑り接合できない他、場合によっては思わぬ事故につながる恐れがありますので、**必ず矢印表示の方向に引いて下さい。**

 フック矢印表示 フック矢印表示とは反対に引かないで下さい	
---	---

6. 連結鎖、ガイド鎖の取り付け方法

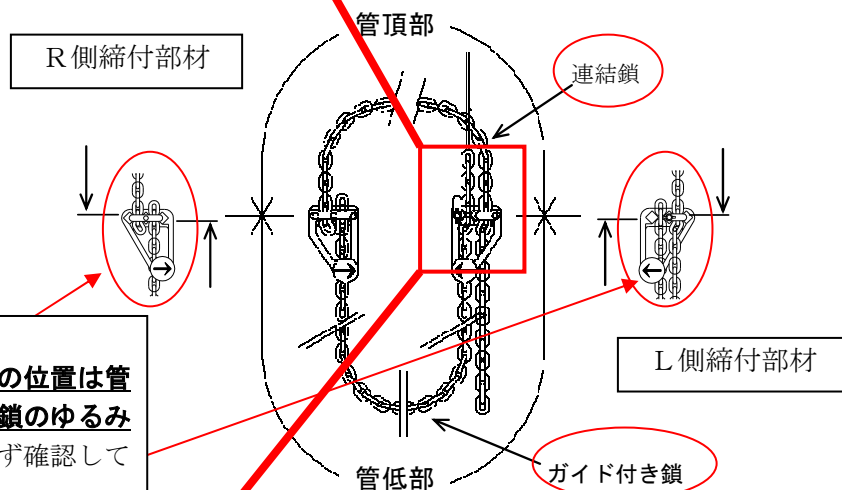
警告

⊃側締付部材で、連結鎖とガイド鎖の取り付け位置を間違えると、管の接合ができなくなる他（管に傷をつける等）、思わぬ事故につながる恐れがありますので、正しくセットして下さい。

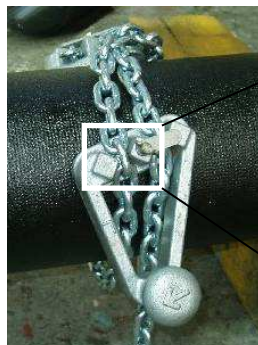


警告

締付部材の位置は管横にし、連結鎖のゆるみがない事を必ず確認して下さい。



ガイド付き鎖は必ず締付部材の内側の下から上に通す。



ガイド付き鎖はゆるみの無いよう、鎖掛口に引掛ける。



鎖掛け口拡大図

7. 連結鎖、ガイド付き鎖の変形、ワッシャのずれ



警告

連結鎖及びガイド付き鎖に伸び、ねじれやもつれた状態でセットされている場合等は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、接合を中止し再度セットし直して下さい。



8. 連結鎖、ガイド付き鎖のゆるみ



警告

連結鎖及びガイド付き鎖を管に装着時、ゆるみが生じているとR側・L側締付部材が傾き（反り返り）、管が損傷する可能性がある他、思わぬ事故につながる恐れがありますので、接合を中止し再度セットし直して下さい。



9. 改造の禁止



警告

接合器具の改造、又純正品以外の部品の使用・取付も絶対に行わないで下さい。

以 上

株式会社クボタ建設 営業部

〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2-16-1
TEL : 047-401-5003 FAX : 047-401-5004

〒660-0095 兵庫県尼崎市大浜町 2-26
TEL : 06-6415-2018 FAX : 06-6415-2014

NSリーダー I (φ75～φ300) ご使用に関する警告

本書は、当器具を使用する際に、特に注意が必要な内容を集約した警告集であり、取扱いについて記載したものではありません。安全にご使用して頂く為に、ご使用前に必ず本書と、別冊の取扱説明書を最後までよくお読みください。



警告

誤った取り扱いをした時に、使用者が死亡、又は重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

1. NSリーダー I の概要

接合器具(直管、異形管共通) : 2 個

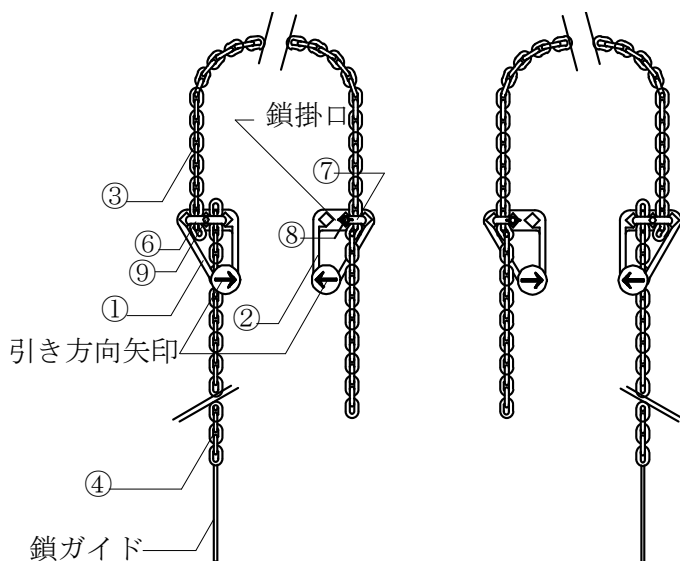


補助器具(異形管用) : 2 個

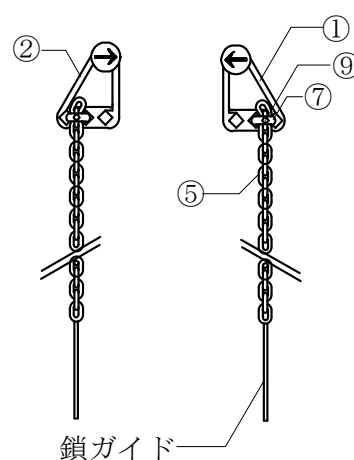
部品表

	部品表
①	R 側締付部材
②	L 側締付部材
③	連結鎖 L = 600
④	ガイド付き鎖 L = 800
⑤	ガイド付き鎖 L = 1200
⑥	鎖固定プレート大
⑦	鎖固定プレート小
⑧	蝶ねじ
⑨	6 角ねじ

接合器具(直管、異形管共通) : 2 個



補助器具(異形管用) : 2 個



2. 使用するレバーホイスト



R側・L側締付部材のフック取り付け用には、**必ず1tレバーホイストをご使用下さい。**

⚠ 警告

1tを超えるものは力がかかり過ぎて、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に使用しないで下さい。**



補助器具(異形管用)取り付け用には、**必ず0.5tレバーホイストをご使用下さい。**

⚠ 警告

0.5tを超えるものは力がかかり過ぎて、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に使用しないで下さい。**

3. 管の接合

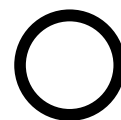
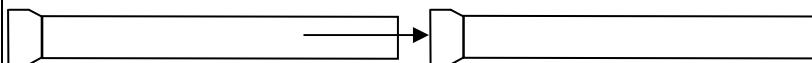
「NS形ダクタイル鉄管接合要領書」に従い、**管の接合は真直な状態で接合して下さい。**

⚠ 警告

継手を屈曲させての接合は、挿し口が受口内のロックリング等に引っかかり接合出来なくなるだけでなく、レバーホイストに力をかけすぎて工具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**絶対に行わないで下さい。**

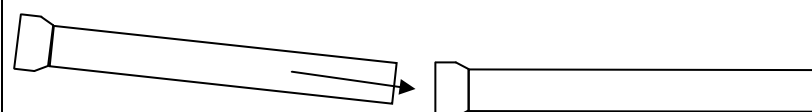
※接合出来ない時は、継手を一旦解体して管を真直な状態にし、接合部品も再度セットし接合して下さい。

必ず真直な状態で接合する



⚠ 警告

屈曲した状態での接合はできません



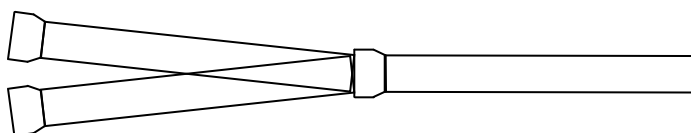
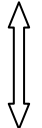
警告

接合中、レバーホイストのチェーンを張った状態で管を振ると、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、絶対に行わないで下さい。

チェーンを張った状態で管を振らないで下さい。



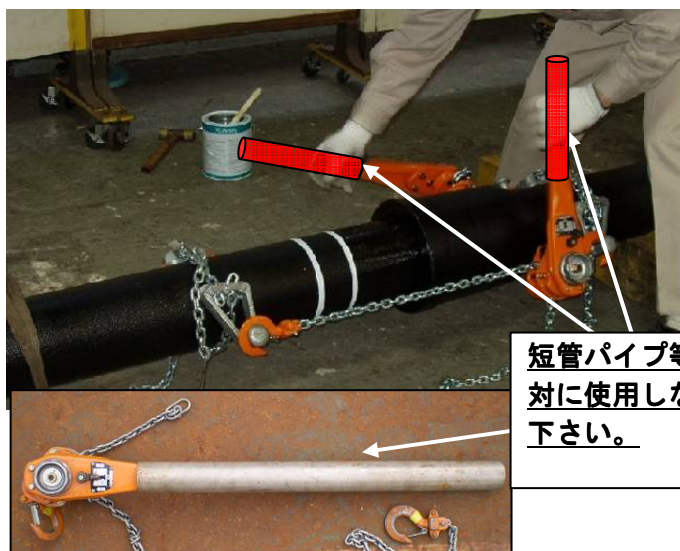
警告 管を振りながらの接合は、絶対に行わないで下さい



警告

操作レバーに短管パイプ等を差し込んでの操作や、足で踏みつけるような操作を行うと、力がかかり過ぎて器具が破損し怪我を負う危険性がありますので、**レバーホイストに規定以上の荷重がかかるような、誤った使い方は絶対に行わないで下さい。**

挿し口突部がロックリングを通過する時、牽引力が必要以上にかかる場合は、一旦継手を解体して管を真直な状態にし、接合部品も再度セットし接合して下さい。

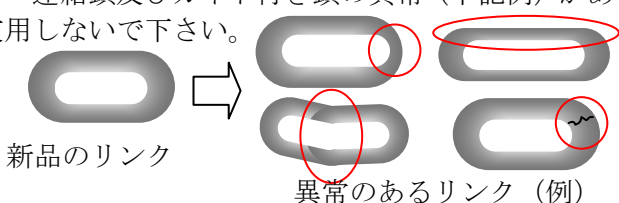


短管パイプ等は絶対に使用しないで下さい。



4. 点検、メンテナンス

警告
使用前に必ず接合器具の各部品の点検を行い、ひび割れ、変形、破損等の異常な個所がある場合は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、絶対に使用しないで下さい。

警告 連結鎖及びガイド付き鎖の異常（下記例）があるものは、絶対に使用しないで下さい。  新品のリンク 異常のあるリンク（例） ・リンク径小 ・伸び ・リンク変形 ・ひび割れ	
---	---

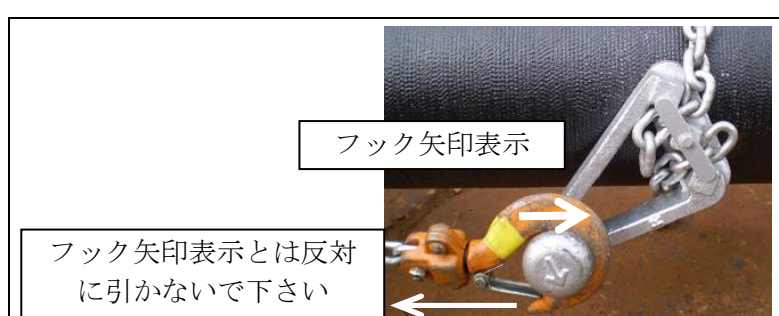
警告
 使用中にひび割れ、変形、破損等の異常な個所が発見された場合は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、**直ちに使用を止めてください。**

警告
 連結鎖及びガイド付き鎖は、NSリーダーI専用の部品です。**交換する際は必ず（株）クボタパイプテック純正品を購入して下さい。**

警告
 連結鎖及びガイド付き鎖の交換は、**購入してから「3年毎」もしくは「接合回数1000回未満」で必ず交換して下さい。**取扱説明書は、表紙に購入年月日・お買い上げ店名を必ず記入し、直ぐ確認できる場所に大切に保管しておいて下さい。

5. 締付部材の引き方向

警告
 フックに表示されている引き方向矢印と反対に引いた場合、締付部材が固定されず連結鎖が滑り接合できない他、場合によっては思わぬ事故につながる恐れがありますので、**必ず矢印表示の方向に引いて下さい。**

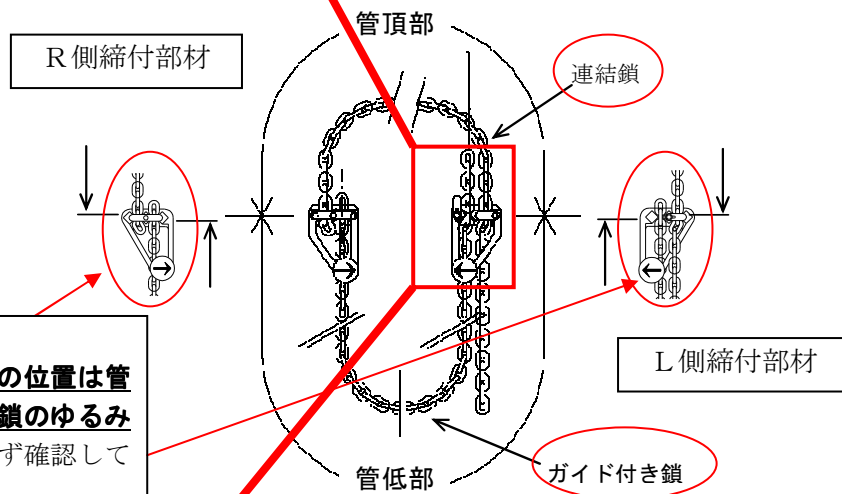
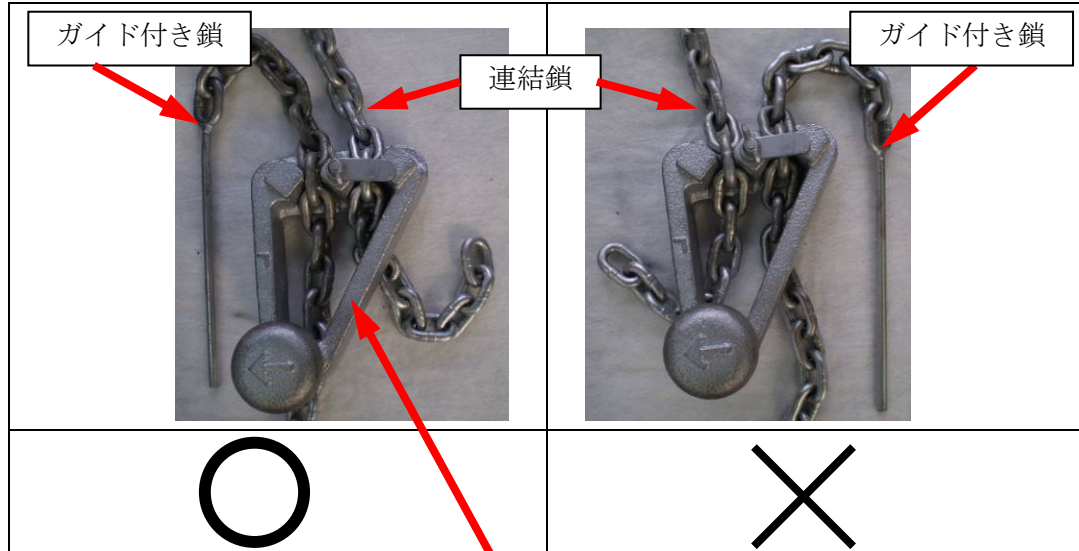
 フック矢印表示 フック矢印表示とは反対に引かないで下さい	
---	---

6. 連結鎖、ガイド鎖の取り付け方法



警告

L側締付部材で、連結鎖とガイド鎖の取り付け位置を間違えると、管の接合ができなくなる他（管に傷をつける等）、思わぬ事故につながる恐れがありますので、正しくセットして下さい。

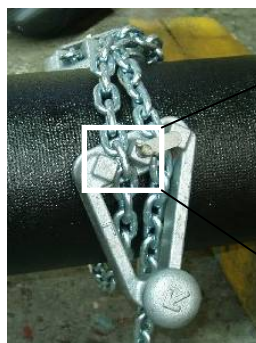
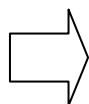


警告

締付部材の位置は管横にし、連結鎖のゆるみがない事を必ず確認して下さい。



ガイド付き鎖は必ず締付部材の内側の下から上に通す。



ガイド付き鎖はゆるみの無いよう、鎖掛け口に引掛ける。



鎖掛け口拡大図

7. 連結鎖、ガイド付き鎖の変形、ワシヤのずれ



警告

連結鎖及びガイド付き鎖に伸び、ねじれやもつれた状態でセットされている場合等は、器具が破損し怪我を負う可能性がありますので、接合を中止し再度セットし直して下さい。



8. 連結鎖、ガイド付き鎖のゆるみ



警告

連結鎖及びガイド付き鎖を管に装着時、ゆるみが生じているとR側・L側締付部材が傾き（反り返り）、管が損傷する可能性がある他、思わぬ事故につながる恐れがありますので、接合を中止し再度セットし直して下さい。



9. 改造の禁止



警告

接合器具の改造、又純正品以外の部品の使用・取付も絶対に行わないで下さい。

以 上

株式会社クボタ建設 営業部

〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2-16-1
TEL : 047-401-5003 FAX : 047-401-5004

〒660-0095 兵庫県尼崎市大浜町 2-26
TEL : 06-6415-2018 FAX : 06-6415-2014